

千葉県立松戸国際高等学校 2020年度活動報告

本校は、国際化社会に対応しうるグローバル人材の育成を目指して、前身の千葉県立松戸東高等学校から、平成6年4月に校名を松戸国際高等学校とし現在に至っている。普通科並びに国際教養科を有し、外国人・帰国生徒等の受け入れも行い、国際交流、国際理解教育等に力を入れている。ユネスコスクール（ESD）活動が目指す、地球規模課題の解決のために、自ら考え行動できる人材の育成は、まさに本校の目指すところであり、本校では、ESDの成果による力を「松国力」と呼び、様々な活動に取り組んでいる。

また、本校は千葉県高等学校教育研究会ESD部会の事務局校でもあることから、県内のユネスコスクール及びESDを実践している公・私立高校、特別支援学校とも連携して、千葉大学教育学部のESD事業との共催による、ESDの研修活動を展開している。

今年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大により、例年の国際交流については中止を余儀なくされたが、その一方で、地域貢献活動や、オンラインによる交流活動など新たな取組みを始めることができた。

○国際交流・国際理解教育

アメリカ短期研修（1・2年生対象、2～3月に3週間）*中止

国際理解講演会（1・2・3年生対象、10月）

○地域貢献活動

地域清掃ボランティア（10月）



みどりの募金活動（ボランティア部）

近隣老人ホームへ「コロナに負けるなカード」の贈り物（HR活動）



○食育に関連した環境問題教育

「環境問題の解決に向けた身近な新素材」講演（クッキング部）
「高校生の体験発表会」参加（聖徳大学、オンライン開催、11月）

○ESD 教員研修会

「SDGsと学校教育」講演
実践報告（ACCU主催日韓教員交流報告、各校の実践発表）

○千葉大学ESD事業への参加・協力

千葉大学ESD成果発表会（オンライン開催、2月）



来年度の活動計画

次年度も、これまで学校が行ってきた様々な国際交流・国際理解のプログラムを実施してゆく。また、本校のユネスコスクール加盟の母体となった、「食」を通じた国際理解教育を続けてきたクッキング部の活動や、SDGsを意識して活動を展開しているボランティア部、そして地域貢献活動の中心である生徒会などの活動と、千葉大学ESD事業との連携を軸にして、学校全体にユネスコスクールとしての活動を浸透させていく。

以上に加え、新型コロナウイルスの影響により制限された活動を、適宜その形式について考えつつ再開していきたい。また、今年度オンラインを活用した研修会等に参加した経験を活かし、来年度は活動の幅を広げていくことにも力を注いでいきたい。